

転職動機から考える社会人看護学生の学習支援

Learning support for people studying nursing after work, taking into account the reasons for changing work

伊東 美智子

Michiko Itoh

神戸常盤大学 保健科学部 看護学科

Kobe Tokiwa University

Key words: 転職動機, 社会人看護学生, 職業的アイデンティティ

目的

2025年問題を間近に控えた我が国において、社会人経験後に看護師を目指し、看護師養成機関に入学してくる人（以下、社会人学生）は増加傾向にある。2012年度の日本看護学校協議会の調査では、看護専門学校での社会人学生数は23.7%¹⁾と、全体の四分の一近くに及ぶ。

一般に、看護師になるためには看護師養成機関で一定期間（専門学校であれば3年）をかけて学修する必要があり、経済的負担が少なくない。相当の覚悟を持って進学し、転職を試みているのかは想像に固くない。その一方で看護教員は、社会人学生に対してどのように指導したらいいのか苦悩し、困り、敬遠し、社会人学生の学ぶ姿勢を問題化するようになった²⁾。

この度、改めて質的研究法によって転職理由を協力者に聴き取ったことで、社会人学生達の看護師養成機関に入るまでの多様な背景や経緯が見出せた。それ等を踏まえ、教育者側が考えるべき社会人学生に向けた学習支援のあり方について考察する。

方法

1) 研究デザイン: 半構造化面接による、質的機能的分析を行った。転職という非常に個人的な出来事を扱うため、個人の主観的な観点から経験の意味づけや人生の様相をとらえることが重要である(徳田, 2004)と考へ、ライフストーリー・インタビュー法を取り入れた。

2) 協力者: 就業4年未満の社会人看護師9名。

表1) 協力者の属性

協力者	進学時の年齢	性別	前職の分類	卒後年数	婚姻の有無
看護師A	30代前半	男性	小売→社会福祉	卒後3年目	既婚
看護師B	30代前半	男性	情報通信	卒後3年目	既婚
看護師C	20代後半	男性	サービス→製造→社会福祉	卒後2年目	未婚
看護師D	20代後半	女性	社会福祉	卒後2年目	既婚
看護師E	20代前半	女性	社会福祉	卒後2年目	未婚
看護師F	40代前半	女性	教育→医療→社会福祉	卒後3年目	既婚→離婚
看護師G	30代後半	女性	保健医療	卒後2年目	既婚→別居
看護師H	30代前半	女性	宿泊	卒後4年目	シングルマザー
看護師I	30代後半	女性	飲料サービス	卒後3年目	既婚

3) 協力者へのアクセス: ネットワークサンプリング法。

4) データ分析方法: 各事例の逐語記録より、研究目的に関連した部分を抽出し、初期コード化した。次にその内容の相違性、同質性を比較分析して、マトリックス表にした。

結果

表2) 協力者ごとの看護師への転職理由

協力者	看護師A	看護師B	看護師C	看護師D	看護師E	看護師F	看護師G	看護師H	看護師I
前職を辞めた理由	現職継続への自問	前職での疲労と、現職継続への自問	福祉士として働いていた影響で看護師と接した	前職の限界	前職の限界	結婚して空閑の仕事に変わった	別居にて地元白帯と妻の日本大震災時の母の言葉	前職継続への自問と妻の言葉	特に前職が嫌ではなかった
年齢の節目	30歳の時	30歳手前の転職	30歳での転職は難しい現状なので思いが強い						
なぜ看護師になったのか	介護士から看護師になった先職の影響	前職に有利なように資格を	ちゃんと勉強したいと思って急ぎました入所希望のために看護師を目指した	介護士時代に呼ばれていた関係で	昔からの憧れ	偶然再会した志者からの一言と、前職の限界	高校卒業時に看護師と前職では前職を取ったが、就職先が無いため、父のすすめを受け入れた	英日本大震災の時に行っていた様子を見て、自分には何もできない。ハローワークで看護師か保育士かの二者択一を説明された	子どもの受診で外で待っていた時に呼び出しをしてくれた人を見て、看護師に興味を持つ
重要な影響	身近で見た環境(家族、子供)の先輩が進学した	看護師への適切な情報は少ない	父の関係を差し替える必要はなかったが、技術不足に気が付かれた	母が看護師		偶然再会した志者からの一言と、同僚看護師のすすめ	父の勧め	母が看護教員	ママ友の勧誘と、自身が産後鬱状態に陥った経験

考察

「看護学生の看護系大学への進学志望動機」では、(消極的動機) (他者の勧め)³⁾もあり、本当に看護師を目指して進学する学生ばかりではないことが半明している。それと比較すると今度の社会人経験者達の志望動機としての(重要他者の影響)は契機であって、最終的には自ら(積極的に看護職を選択)していた。このように一念発起して前職を辞し、看護に転職してくる学生達へは、「社会人学生がこれまでの経験の中で得た職業に対する考えを知ること、今後の社会人学生の職業アイデンティティ構築に関わる必要がある」(高野, 2017)⁴⁾と述べられている。社会人学生の経験の強みを活かすこと、具体的な方法について、今後も考え続けたい。

参考文献

- 1) 一般社団法人 日本看護学校協議会 (2013) 「看護師要請所の管理・運営等に関する実態調査」 P.1
- 2) 高野真由美 (2017) 「社会人経験を持つ看護学生の理解と支援—看護への志望動機と就学上感じる困難について文献からの検討—」川崎市立看護短期大学紀要 22 巻 1 号 P.37
- 3) 竹本由香里 (2008) 「看護学生の看護系大学への進学志望動機の検討」宮城大学看護学部紀要 11 巻 1 号 P.16
- 4) 2) P.41